

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査報告

今年度、6年生児童を対象に行われた、全国学力・学習状況調査の結果についてご報告いたします。なお、各調査結果のデータにつきましては、学校ホームページに掲載されておりますので、そちらも併せてご覧ください。

調査結果概要・問題別調査結果・児童質問紙について

今回の調査結果から、本校児童の調査正答率は、全国・神奈川県全体と比べ、国語は 6%ほど、算数は12%ほど、理科は5%ほど低い結果となりました。正答数の分布結果を分析すると、国語・算数・理科、いずれも一人ひとりの正答数は全国・県の平均と比べると低い割合が高くなっています。

【教科ごとの様子】

〔国語〕◎「情報の扱い方」の事項で全国・県と比べて正答率が高い

⇒目的や意図に応じて情報を選んだり、関係付けたりして伝えたい内容を明確にすることができていることが分かります。

▲「言語について」「話すこと・聞くこと」の事項で正答率が10～15%近く低い

⇒漢字の定着や主語・述語・修飾語など文法についての理解が十分ではないこと、目的や意図に応じて伝えたい内容を検討したり、捉えたりすることが難しかったことが分かります。

〔算数〕▲「測定」「変化の関係」の領域で正答率が15%近く低い

⇒伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することが十分にできなかったことが分かります。

〔理科〕◎出題形式が「記述式」の問題で全国・県と比べて正答率が高い

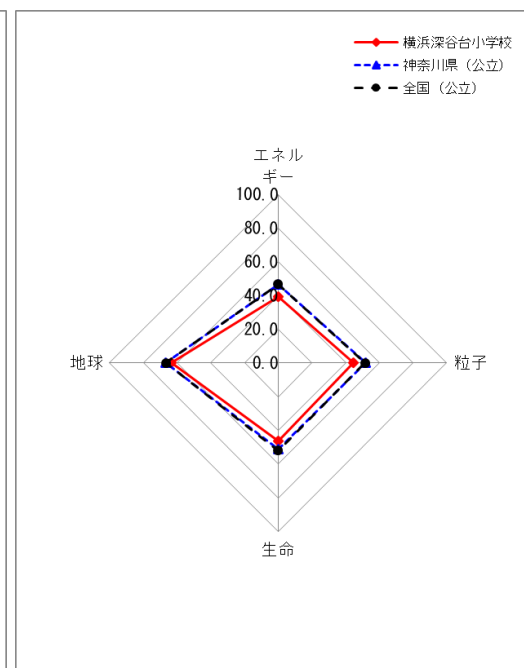
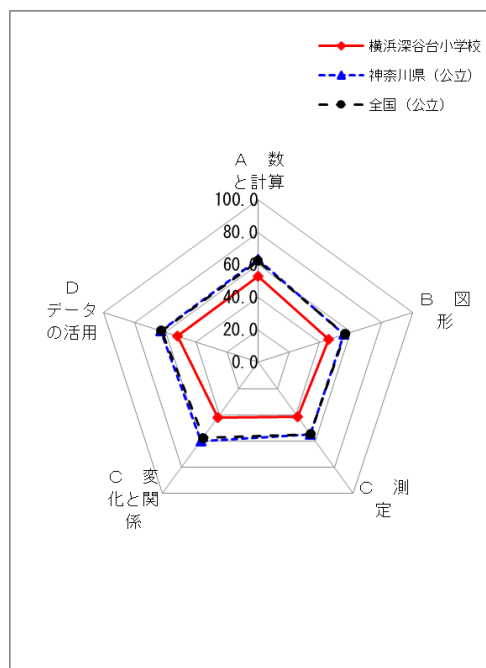
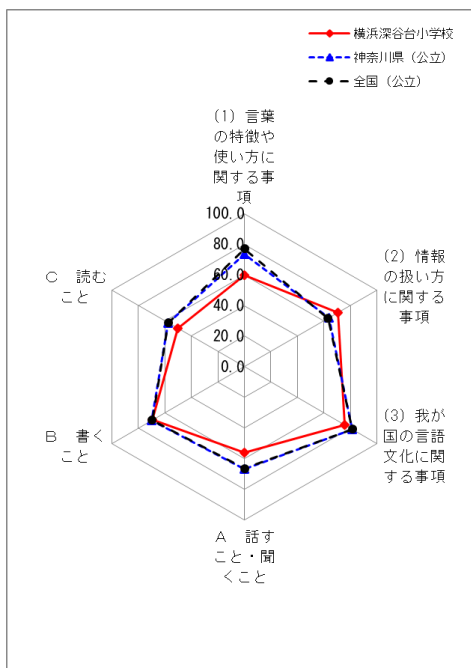
⇒結果を基に結論を導いた理由を表現したり、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現したりすることができていることが分かります。

▲「エネルギー」「粒子」の領域で正答率が7%ほど低い

⇒電気や電流、水の状態などに関する概念的な理解が十分でなかったことが分かります。

本校では、年間を通して、横深検定（国語と算数）を行っており、定期的に漢字・計算力の定着を確認しています。昨年度の検定では、金賞（点数が90%以上）の人数が、国語61名、計算103名、総合70名でした。まだ、全校児童に定着が図られてきたとは言えませんが、今後は、漢字・計算力の定着と合わせて「言語能力の向上」に向けた取り組みを行い、学力向上を目指していきます。

〈国語〉学習指導要領の内容の平均正答率の状況 〈算数〉学習指導要領の内容の平均正答率の状況 〈理科〉学習指導要領の内容の平均正答率の状況

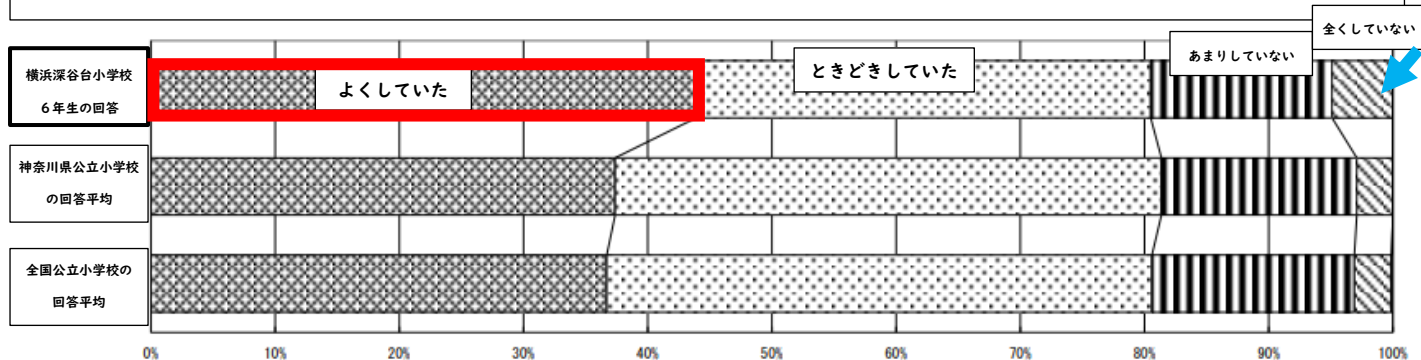


【生活の様子】

児童の生活意識調査からは、自然の中での体験や友達と協力して学習に取り組もうとする思いをもっていることが分かります。

質問番号25

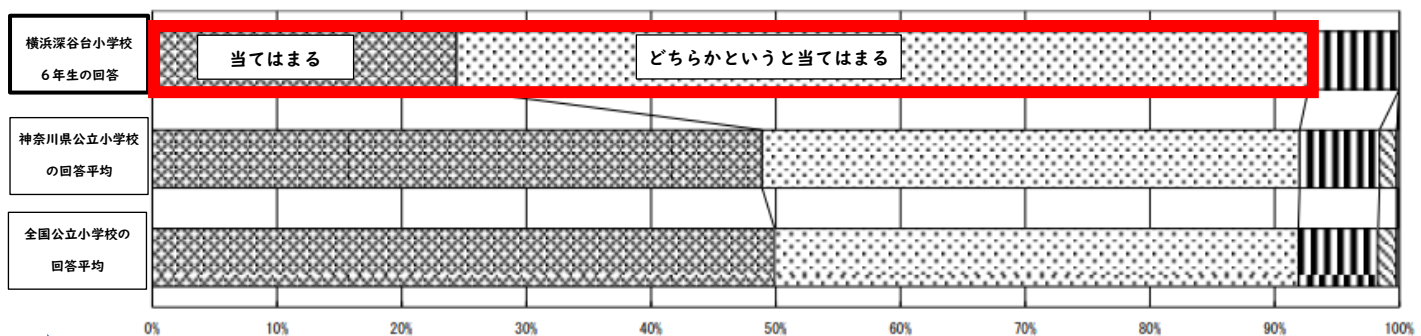
これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか



神奈川県との回答平均と比べると、「よくしていた」と回答する児童が5.6%多い。

質問番号39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

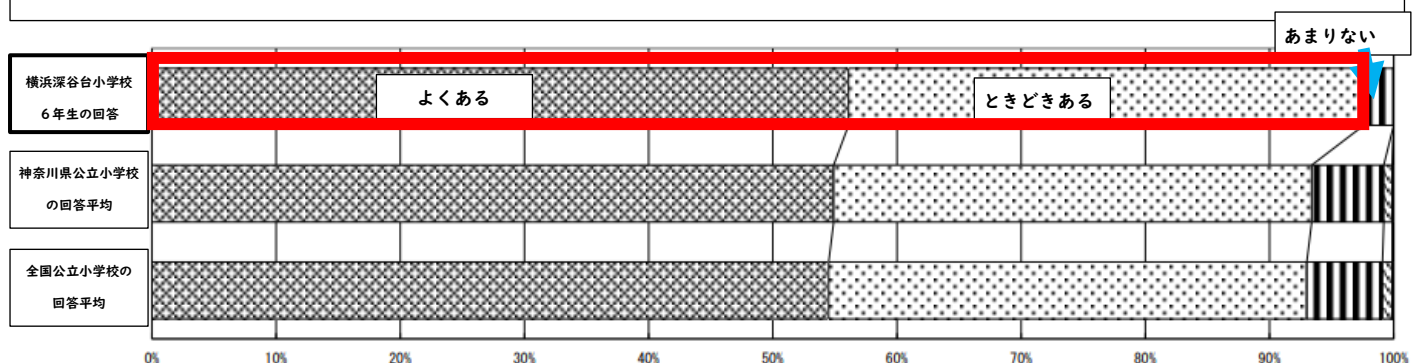


「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答する児童が92.7%と神奈川県との回答平均より多い。

一方で、「自分には、よいところがあると思いますか（質問番号5）」、「将来の夢や目標をもっていますか（質問番号7）」などの項目で、「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」と回答した割合が少ないことが目立ちます。児童一人ひとりの良さを認め、学校での学びが将来の成長や夢の実現にどのようにつながっているのか具体的に示しながら、子どもたちが学ぶ意味を実感できるような指導を心掛けていきます。

質問番号15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



神奈川県との回答平均と比べると、「とてもそう思う」「そう思う」と回答する児童が4.2%多い。

友達関係の満足度（質問番号14）からも、子どもたちが普段の生活の中で幸せな気持ちを感じることが多いことが分かります。この子どもたちの笑顔を大切にしながら、保護者や地域の皆様と一緒に、一人ひとりの良いところを伸ばし、楽しく学び成長できる学校づくりに取り組んでまいります。